

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 臼井 美帆子

論 文 題 目

二次救急体制を有する病院における受診科決定支援を
行う看護師に必要なコンピテンシー：デルファイ調査

論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 池松 裕子

名古屋大学教授 林 登志雄

名古屋大学教授 太田 勝正

論文審査の結果の要旨

我が国の医療制度は、国民皆保険、フリーアクセスという点において独特であり、高度な医療をもって国民の高い健康水準を支えてきた。しかし、フリーアクセスは保障されているものの、患者は必ずしも的確な診療科への受診をしているとは限らず、結果として、無駄な受診、的確な診療科にたどり着くまでの時間の遷延により治療の遅れが生じ患者への不利益となる。経済的観点から、このことは不必要な医療費の増大へとつながると考える。患者が的確な診療科へ受診できるよう支援する（受診科決定支援を行う）医療職は看護職であることが多い。しかし、これまで受診科決定支援を行う看護師に必要なコンピテンシーについて明らかにした研究はない。

本研究は、複数の方法によりリクルートした 85 名のエキスパート・パネルを対象に、3 ラウンドのデルファイ法を行い、二次救急体制を有する病院における受診科決定支援を行う看護師に必要なコンピテンシーについて明らかにした。




本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

1. 受診科決定支援を行う看護師に必要なコンピテンシーとして、重要項目（50%以上のエキスパート・パネルが重要と評価）は 22 項目あり、その内訳は「知識の適用（アセスメント）力」9 項目、「人間関係をつくる（コミュニケーション）力」6 項目、「倫理実践力」3 項目、「専門職者間連携力」4 項目であった。
2. 上記のうち最重要項目（70%以上のエキスパート・パネルが重要と評価した項目）は 6 項目あり、「緊急度・重症度について判断できる」「緊急度・重症度について疑わしいケースに関しては、患者を緊急度・重症度をより高いレベルへと位置付けることができる」「自施設で対応できる診療の範囲について熟知している」「思いやりのある態度で接することができる」「判断に困る症例については、適切な人に相談できる」「必要時、他の人に仕事を割り振ることができる」であった。
3. 本研究は、二次救急体制を有する病院における受診科決定支援を行う看護師のための 22 の重要なコンピテンシーを特定した我が国においてはじめての研究であり、今後の臨床において、受診科決定支援を行う看護師のための教育への応用、提供するケアの質の保証に資することが期待される。

本論文の一部は、英文国際誌 Nagoya Journal of Medical Science(IF=0.897, 2018)に受理された。

以上より、本研究は博士（看護学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	臼井 美帆子
試験担当者	主査 名古屋大学教授		名古屋大学教授	名古屋大学教授
	池松 裕子		林 登志雄	 太田 勝正 
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の病院の救急外来における受診科決定の特徴について 2. 日本と諸外国との病院における受診科決定のトリアージの違いについて 3. 本研究の対象を二次救急体制を有する病院としたことの妥当性について 4. デルファイ調査のパネルのリクルート法の妥当性について 5. 適切なトリアージにつながるコンピテンシーの要素について 6. 研究倫理上、とくに配慮すべき点について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、看護学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				